



平成 26 年 6 月 20 日

独立行政法人国立科学博物館

世界最大の「花」ショクダイオオコンニャクが開花します

国立科学博物館筑波実験植物園（園長 岩科 司）では、世界最大の「花」といわれるショクダイオオコンニャク（燭台大蒟蒻）が7月初旬に開花することが予想されます。

ショクダイオオコンニャクの開花は世界でも稀で、しかも咲いて3日目には萎れてしまうことから、花を見るチャンスは滅多にありません。開花までの生長の様子を見どころとともにホームページで公開します。

当園での開花は、平成24年に続き2回目です。4月の時点での塊茎（イモ）の重さは70kgと、2年前より36kg増加しており、前回より大きな花が咲くと予想されます。

ショクダイオオコンニャク (*Amorphophallus titanum*) は、インドネシア・スマトラ島の限られた場所に生えるサトイモ科の絶滅危惧種です。巨大な花の集まり（花序）は高さ3メートル、直径1メートル以上にもなり、世界でもっとも大きい花序をつける植物です。また、腐った肉のような強烈な匂いを放ち、世界でもっとも醜い花とも呼ばれています。

ギネスブックで認定された世界最大の記録は高さ3.1メートルで、今回もどこまで大きくなるかが注目されます。

開花予想は平成26年7月1日（火）から4日（金）頃で、開花後2日間が見ごろになります。開花するまで1日17cmも成長するなど、花の生育する様子も見応えがあります。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：西田 幸男

担当研究員：堤 千絵（植物研究部 多様性解析・保全グループ）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: tbjimu@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

ショクダイオオコンニャクの開花について

1. ショクダイオオコンニャクについて

標準的な和名：ショクダイオオコンニャク（燭台大蒟蒻）

学名：*Amorphophallus titanum*（アモルフォファルス・ティタヌム）

科名：サトイモ科

分布：インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林

花序の最大のサイズ：高さ3.1m（ギネスブックの公式記録）、直径1m

世界最大の「花」：ショクダイオオコンニャクの「花」は正確には花序（花の集まり）です。例えばアジサイのかたまって咲く花と同じです。花そのものが最も大きい植物はラフレシアの一種です。

2. 開花について

開花予想：平成26年7月初旬

日本での開花：今回9例目（本園では2例目）

前回の開花：開花日 平成24年5月25日（金）

花序のサイズ 高さ206cm、直径93cm

塊茎（イモの）サイズ 重量34kg、直径51cm、厚さ30cm

花の見ごろ：開花日を含め2～3日です。3日目には花が閉じることが予想されます。

前回よりイモがはるかに大きくなったため、より大きな花が咲くと予想されます。

履歴：平成4年 東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）で播種。

平成18年 小石川植物園から譲り受け。

平成24年3月 生育・休眠を数回繰り返し、2013年3月に生育を開始。同年3月16日に定植。

平成24年5月25日 開花

平成26年4月23日 植え替え（イモのサイズは重量70kg、直径66cm、厚さ42cm）

3. 開花までの記録について

筑波実験植物園ホームページ（<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>）で生長の様子や開花の予想を見どころとともに紹介します。

※但し、平成26年6月22日（日）17時頃から23日（月）15時頃まで設備点検によりホームページをご覧いただけません。



ショクダイオオコンニャクのつぼみ
（平成26年6月19日）



シヨクダイオオコンニャクのイモ
(平成 26 年 4 月 23 日の様子)
イモのサイズは重量 70kg (2 年前と
比べて+36kg)、直径 66cm (+15cm)、
厚さ 42cm (+12cm)



前回の花の様子
(平成 24 年 5 月 25 日)